

平成26年第10回東京都北区教育委員会臨時会

会議月日	平成26年10月21日(火)午後1時30分	
開催場所	北区教育委員会室	
出席委員	委員長 加藤和宣 委員 嶋谷珠美 委員 森下淑子	委員 檜垣昌子 委員 森岡謙二 教育長 内田隆
欠席委員	なし	
事務局職員	事務局次長 学校改築施設管理課長 学校地域連携担当課長 教育改革・教育支援担当副参事 スポーツ施策推進担当課長  体育協会事務局長 中央図書館長 学校適正配置担当部長	教育政策課長(教育未来館長) 学校支援課長 教育指導課長 生涯学習・スポーツ振興課長 東京オリンピック・パラリンピック担当課長 飛鳥山博物館長 学校適正配置担当課長

会議に付した議案並びに審査結果

日程	報告事項	報告内容	結果
1	53号	区内企業向けアスリート就職支援説明会の開催について	了承
2	54号	「2020チャレンジアカデミー・フェンシング教室」実施に向けた体験会の開催について	了承
3	55号	ナショナルトレーニングセンター「勝ち飯食堂」栄養士による食育講座について	了承

平成26年第10回東京都北区教育委員会臨時会会議録

平成26年10月21日(火) 13:30

加藤委員長	<p>それでは、出席委員が定足数に達しておりますので、会議は成立しております。これより、平成26年第10回北区教育委員会臨時会を開会いたします。</p> <p>日程第1、報告第53号、区内企業向けアスリート就職支援説明会の開催について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	委員長
加藤委員長	東京オリンピック・パラリンピック担当課長
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	<p>それでは、報告第53号について報告をいたします。1枚おめくりをいただきまして、区内企業向けアスリートの就職支援説明会の開催についてでございます。恐れ入りますが、本日チラシを1枚席上に配付をさせていただきました。アスリートを採用しませんかということで、これは区独自で作ったPRのためのチラシでございます。</p> <p>アスリートの就職支援説明会でございます。JOCでございますけれども、企業側へのこうした取組みを2011年から行っているということでございます。これまでの例を挙げますと、経済同友会ですとか、経済連合会、それから東京ニュービジネス協議会、ベンチャー企業の集まりなのですが、こうした会員企業さんを対象に13回ほど実施してきたところでございます。</p> <p>ただし、自治体を巻き込みましての就職支援説明会は、本年7月に板橋区で実施した説明会に引き続きまして2回目ということになります。</p> <p>このアスナビなのですが、選手がナショナルトレーニングセンターで練習を行う一方で、企業に週三日程度出勤をするという仕組みになってございます。選手側のメリットは生活基盤、経済面で不安なく練習に打ち込めるということがあると考えてございます。それから企業側のメリットでございます。チラシの中央にピンク色で書いてございますとおり、企業のイメージアップ、それから身近にアスリートがいることで、一体感や社員の士気向上を図ることができるなどのメリットがあると考えてございます。</p> <p>資料をお戻りいただきまして、2番の日時でございます。お示しのとおりでございます。</p> <p>4の内容でございます。(1)センター内施設見学会です。説明会に先立ちまして、区内の企業の方々にこの施設を見学してもらおうという会を開きます。</p> <p>それから(2)の説明会でございます。アスナビと書いてございますけれども、アスリートナビゲーションというJOCのシステムの呼称でございます。そのシステムの説明を行います。</p> <p>それから採用事例の紹介を行います。プレゼンテーションなのですが、アスリ</p>

ートの皆様で、予定しているのは今は七、八名でございますけれども、七、八名が企業に採用を訴えるためのプレゼンテーションを各自3分程度行いまして、その後企業との懇談を行うというものでございます。

5の今後の予定でございますけれども、まずは東京商工会議所北支部から事業所向けの参加依頼、区内約1,800企業に通知をいたします。区からのPRでございますけれども、10月20日号の北区ニュースで周知をいたします。事業者向けの参加依頼をいたします。それから、従業員数約100人以上の企業が約120社ございます。この企業につきましても、区から直接ご案内の文書を発送いたします。重ねまして、上位の数十社につきましては、できる範囲で区から直接人事担当者宛に電話をいたしまして、参加依頼を促したいと考えているところでございます。

以下、参考までに申し上げますけれども、これまでアスナビを13回行ってまいりました。例えば競泳の上田春佳選手、キックマンでございます。それから、ビーチバレーの朝日健太郎選手、情報通信のコンサルタント会社、株式会社フォーバルと申しますけれども、約35名が企業に採用されてございます。ちなみに、今年の7月に板橋区の企業向けに実施した説明会でございますけれども、プレゼンをした選手が8名でございます。8名以外に、リストがございまして、約100名の選手のリストがございまして、約100名ちょっとの選手がエントリーをしているということでございまして、板橋区につきましては参加企業、38社、採用に至った企業が1社という実績でございます。

今回、北区で行います特色といたしましては、ハローワークが初めてこうしたアスナビ支援事業に共催として参画をするという点が1点です。それから、パラリンピアンのエントリーでございます。パラリンピアンエントリーの働きかけを行っていますが、パラリンピアンの方につきましては、登録が数名ということでございます。当日参加いただけるかどうかは微妙な情勢でございますけれども、パラリンピックに積極的に取り組んでいくという視点から、パラリンピアンエントリーをJOCに働きかけをしているということでございます。

以上でございます。

加藤委員長

ありがとうございます。本件について、ご質疑またはご意見はございますか。

(質疑・意見なし)

加藤委員長

特に、ご質疑・ご意見がないようですので、ここで本件に関する報告は終了いたします。

次に、日程第2、報告第54号、「2020チャレンジアカデミー・フェンシング教室」実施に向けた体験会の開催について、事務局から説明をお願いいたします。

東京オリンピック・パラリンピック

委員長

ク担当課長

加藤委員長

東京オリンピック・パラリンピック担当課長

東京オリンピック・パラリンピック担当課長

それでは、報告第54号でございます。1枚おめくりをいただきまして、フェンシング教室実施に向けた体験会の開催でございます。これにつきましては、かねてよりご説明、ご報告をさせていただいておりますJOCのナショナルコーチ等の協力によります通年実施のフェンシング教室、それから車いすのフェンシング教室につきまして、通年の教室実施を今予定しているところでございますが、まずは体験会を実施していくというものでございます。

2番の体験会の開催でございます。1のいわゆる健常者のフェンシングをお示しの日時・会場で行います。それから、車いすのフェンシングでございます。これは、日時・会場はお示しのとおりでございますけれども、12月7日にハートスポーツフェスタ、これは東京都の障害者総合スポーツセンターとの共催で行うものでございますけれども、このハートスポーツフェスタの一角をお借りをいたしまして、体験会を実施するというものでございます。

なお、(2)の車いすフェンシングの際には、その他たくさんのお客さんがいらっしゃるということで、著名なアスリートを招いてのトークショーなどPRを含めまして考えているところでございます。

3の今後の予定でございます。体験会の状況を踏まえまして、年明けから週1回程度、それぞれ通年の教室を実施していきたいと考えてございます。フェンシング教室につきましては、滝野川西ふれあい館の8階多目的ホールでございます。対象者は、北区民、小学3年生から中学3年生程度を対象としたいと考えてございます。定員は、会場の関係で30名と考えてございます。車いすフェンシングにつきましては、赤羽根スポーツの森公園競技場ふれあいホールでございます。対象者につきましては、北区民を優先という形で考えますが、北区民に限らず広く募集します。定員につきましては、10名ということで考えてございます。

この体験教室の周知につきましては、区のホームページ、それから北区ニュース、それから区内小中学校の全児童・生徒宛に通知を差し上げるということを考えてございます。あわせまして、車いすのフェンシングでございますけれども、東京都障害者総合スポーツセンターにお願いいたしまして、通所者の中から勧誘、それからスカウトのお願いをしていくと考えているところでございます。

以上でございます。

加藤委員長

ありがとうございます。本件について、ご質疑またはご意見はございますか。

森岡委員

委員長

加藤委員長

森岡委員

森岡委員	フェンシング教室で、定員が30名ですよね。30名ということは、30名をどういう形で選ばれるのでしょうか。フェンシングは特殊な技術を要するし、ただ単に一般の人が興味本位でどんなものかなと思い、見に行くことは少ないと思ったものですから。
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	委員長
加藤委員長	東京オリンピック・パラリンピック担当課長
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	定員の設定でございますが、先ほどご説明いたしましたように、会場の都合もありまして30名ということにさせていただいたところなのですが、まずは体験会を開きまして、その中でどの程度人が集まるかというのを見きわめていきたいということが1点でございます。 それから、フェンシング教室の趣旨なのですけれども、オリンピック・パラリンピックを見据えたアスリートの育成という視点が1点です。それからスポーツの参加率の推進ということで、新たなスポーツに参画をしていただきたい、スポーツに加わっていただきたいという視点です。二つのグループで進めていきたいと考えているところでございまして、実際に30名を超えた場合の対応、その他につきましては、体験会等の状況を見ながら、また当日の通年教室の参加意向を踏まえながら、その時点で考えていきたいと思っております。
森岡委員	集まった人の中から見てというのではなくて、事前にフェンシングの組織、そういうところにPRもしたほうがいいのではないかなと思ったものですから。
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	フェンシング教室の実施に当たりましては、ナショナルトレーニングセンターのナショナルコーチ、それから東京都のフェンシング協会と密に打ち合わせをしているところでございます。実は、国立スポーツ科学センターのほうで、昨年までフェンシング教室を実施しておりました。これは、定期的に週1回で実施していたということなのでございますけれども、そこの選手が60名ほどおります。今会場がないということで聞いてございます。ただ、その中で北区のお子さんが3名程度と聞いてございます。今いろいろフェンシング協会などから聞いたり確認したりしているところでは、フェンシング経験者を集めるという点ではなかなか難しい、30名を埋めるのはなかなか難しいということで認識をしているところでございます。
檜垣委員	委員長
加藤委員長	檜垣委員

檜垣委員	非常に楽しいフェンシング教室なのですが、期間はどのぐらいを見込んでいるのでしょうか。1年ずつなのか、それとも2020年までずっと続くのでしょうか。
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	委員長
加藤委員長	東京オリンピック・パラリンピック担当課長
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	事業名称が2020年チャレンジアカデミーということになってございますが、これは2020年を見据えて、2020年に向けてという点もございまして、2020年が終わった以降も引き続き展開をしていきたいと考えているところでございます。
檜垣委員	ありがとうございます。
加藤委員長	ほかに、ご質疑またはご意見はございませんか。  (質疑・意見なし)
加藤委員長	ご質疑・ご意見がないようですので、ここで本件に関する報告は終了いたします。次に、日程第3、報告第55号、ナショナルトレーニングセンター「勝ち飯食堂」栄養士による食育講座について、事務局から説明をお願いいたします。
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	委員長
加藤委員長	東京オリンピック・パラリンピック担当課長
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	それでは、報告第55号でございまして、1枚おめくりをお願いいたします。ナショナルトレーニングセンター栄養士の食育講座でございまして、この事業でございましてけれども、ナショナルトレーニングセンターのあらゆる機能を引き出し活用する、そんな連携事業がないかということで検討してきたところでございまして、その中でオリンピック教育推進校でございまして稲付中サブファミリーが健康教育に取り組んでいるという点を踏まえまして、JOCを通じまして調整をいたしました結果、実現をした事業でございまして。
	1の概要でございまして、ナショナルトレーニングセンターの宿泊棟の1階でござい

すサクラダイニングというアスリート専用の食堂がございます。愛称を「勝ち飯食堂」といいます。食堂に「勝ち飯食堂」という看板がかかっているわけではございません。選手間で「勝ち飯食堂」という愛称で呼んでいたり、あるいは運営している味の素のホームページで「勝ち飯食堂」と大きくPRをされていたりしてございます。その食堂で、トップアスリートの皆さんが日々勝ち抜くための「勝ち飯」、これを提供したり、選手らに勝ち抜くためにはどんなものを摂取すればよいかを指導したりしている管理栄養士による食育講座、これを実施するというものでございます。

そういう点で一般の食育講座とは異なりまして、あくまでもハイパフォーマンスセンターの拠点であるナショナルトレーニングセンターの栄養士がハイパフォーマンスを生むためのトレセンならではの食育講座を実施するというところでございます。

2の実施方法でございます。先ほど説明しましたとおり、稲付中サブファミリーの学校で行うというものでございます。いずれの学校も児童・生徒向けと、保護者向けとを別々に分けまして開催をすると考えております。

開催時期でございますけれども、本年の12月から順次開講をするという予定でございまして、まずは第三岩淵小学校の児童向けを12月に実施いたします。

開催場所につきましては、JOCとも調整をしてきたところなのですが、最終的には各学校の教室、または体育館で行うという形になってございます。

今後の予定でございます。本事業につきましては、区の推進をしておりますシティプロモーション事業という視点から広報課と連携をいたしまして、効果的なPR戦略を今後考えていくということで考えているところでございます。

以上でございます。

加藤委員長 ありがとうございます。この件について、ご質疑またはご意見はございませんか。

森下委員 委員長

加藤委員長 森下委員

森下委員 主観的なことなのですが、この「勝ち飯食堂」という名称が、全く違和感のない方もいるかとは思いますが、私はちょっと「勝ち飯食堂」というのが、今どきちょっと古いのかなと思います。どこにそういう名前のついているところがあるのかなと思いました。今説明を聞いて愛称だということがわかりましたが、ご案内を出されたりするようなどときには、できたら括弧して、トップアスリート間の愛称などとあったほうが良いと思います。「勝ち飯食堂」というのがナショナルトレーニングセンターの中にあるのかなという感じがします。勝つだけではなくて、力がうんと湧いてくるというのをその地域の子どもたち、保護者たちに紹介して受け取って欲しいと思います。「勝ち飯食堂」というのに、違和感を持ちました。説明を聞いてわかったのですが、これを読まれただけではわからないと思いました。

加藤委員長 他にありますか。

檜垣委員	委員長
加藤委員長	檜垣委員
檜垣委員	ナショナルトレーニングセンターの栄養士さんによる食育講座ということで、非常に楽しい講座であると解釈をしております。12月から毎月1回ということなのですが、平日は授業もあります。例えば土曜日とか、要するに月の1回の予定日というのが大体土曜日にやるとか、例えば水曜日にやるとか、検討されていると思うのですが、その辺はいかがなんでしょうか。
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	委員長
加藤委員長	東京オリンピック・パラリンピック担当課長
東京オリンピック・パラリンピック担当課長	実施日の件でございますが、これは栄養士が柔軟に対応できるということでございまして、平日に限らず土日でもできるということでございます。実施日につきましては学校側と栄養士のほうで調整をして行うということになってございます。
加藤委員長	ほかに、ご質疑またはご意見はございませんか。  (質疑・意見なし)
加藤委員長	ご質疑・ご意見がないようですので、ここで本件に関する報告は終了いたします。以上で、本日の日程全てを終了いたしました。これもちまして、平成26年第10回教育委員会臨時会を閉会いたします。